

講義年月日	2002年11月13日 (水)
講演者	高橋 智氏 (慶應義塾大学附属研究所斯道文庫助教授)
テーマ	研究者からみた専門職としての図書館員の必要性
講義内容	<p><b>特殊文庫経営法</b></p> <p><b>1. 文庫</b>          ・文庫とは、一つのまとまったコレクションを指す。          ・文庫は、それなりの意味があって蒐集されたものなので、まとめて保存すべきである。分類によってばらして配架することは、蒐集の意図を否定することに他ならない。ばらしてしまうと価値が半減する。</p> <p><b>2. 漢籍</b>          (1)漢籍という資料と図書館          ・漢籍とは、漢字で書かれた中国の古典籍 (例：論語』、 史記』)。          (2)資料の保存と公開          (3)資料の性格とその目録          ・目録は文庫ごとに作成する。          ・図書館員が使いやすい、わかりやすい目録を作る。</p> <p><b>3. 文献学</b>          (1)日本における<b>書誌学</b>と中国における文献学          ・中国の図書館員は文献学を学ぶ。日本では書誌学が文献学に相当する。          ・日本の図書館員は書誌学を学んでも、文献を扱っているイメージがない。          (2)図書館と文献学          ・文献学の3体系              <b>目録学</b>              <b>版本学</b>              <b>校勘学</b>          (3)図書館人と文献学          ・文献学を図書館の資料 (実物) に学ぶことで、図書館員 = 専門家となる。          ・図書館員は、自分の関心のある分野について深く知識を得て、さらに、自分の図書館にどのような資料があるのかを知る必要がある。専門家より有利な仕事ができる。</p>
用語	<p><b>文庫</b> 書籍の蒐集を目的とするもの。転じて、まとまった蔵書。コレクション。  <b>漢籍</b> 漢字で書かれた中国の古典籍。  <b>文献学</b> 文献の原典批判・解釈・成立史・出典研究を行う学問。  <b>書誌学</b> 書物を調査・研究の対象とする学問。  <b>目録学</b> 中国で、書物に関する学問をいい、書物の類別・部類・版刻などを研究する。  <b>版本学</b> 目録学の一構成部分として発生、分岐した。写本ではない印刷本 (版本) の文字・印刷・装幀等の違いを研究する学問。  <b>校勘学</b> 典籍の文字・文章の異同について、多くの異本と比較対照し、その原本の姿を突きとめようとする学問。</p>
感想	<p>特殊文庫を「特別」に扱う意義について、あらためて納得させられた。しかし、文庫を特別扱いするためには、それなりの環境 (配架場所等) が必要である。現実との兼ね合いをどう取っていくかが課題として残る。</p> <p>和漢古書を扱う図書館員が持つべき心構えを教えられた。</p>
配付物	<p>「特殊文庫経営法」          長澤規矩也「貴重書と別置本」東京都立日比谷図書館『ひびや』、第10巻 第3号、1968、p.13-18。</p>